

第5回コミュニケーション（福所様）_5月13日

博士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>弁理士という言葉自体は耳にしたことがあったが、詳細は今まで知らなかったので、本講義では弁理士の必要性などを重点的に学ぶことができ大変有意義だった。必要な背景や具体例が明確で、イメージのしやすさに繋がった。</p>	<p>ご感想をありがとうございました。弁理士の仕事のご紹介も含めて少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>「言語が違う」というのは、本当によくあると感じます。そもそも、一般的な言葉の使われ方と自分の分野で使われる用語にもずれがよくあります。さらには、研究の仕方のセオリーなども違います。分野の融合などにおいてコミュニケーションが重要になるかと思いますが、より円滑に行うにはやはり相手の分野についてよく知ることが重要かと思います。勉強の仕方を知るにはやはり一つ道を究めていくことが必要かと思います。私は、博士卒業を1つ目安にしています。貴重なお話をありがとうございました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。おっしゃるよう分野が違うと研究の進め方・セオリーも異なるので、その点もコミュニケーションにおいて留意すべき点になると思います。</p>
<p>講義ありがとうございました。研究発表や分野の先生方との会話において、異文化を感じるがあります。例えば、先生方とのやり取りで「ズレ（ギャップ）」が生じ、自身の研究を先生に理解されないことがあります。他者に説明することの難しさがあります。このような経験からコミュニケーション力の重要性を痛感しています。本日の講義を通じ、相手を尊重すること、わかり合うこと、スペシャリスト+ゼネラリスト思考の大切さを学びました。また、講義の最後に学際的であることのお話がありましたが、弁理士のご経験、実務を踏まえた印象的なキーワードのように感じました。キャリアマネジメントの学びになりました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。説明の難しさを実感されるご経験がおありなのですね。今回お話させていただいたことが少しでもヒントになりますと幸いです。</p>

第5回コミュニケーション（福所様）_5月13日

博士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>事例1の中で、問題となった点を円と星での図解が、とても分かりやすいスライドでした。抽象的な話をうまくスライド化してあり、自分の発表の時の参考になりました。傾聴やラポール形成の話について、これらの相手の話を聞くというテクニックは、普段の生活、研究室内のコミュニケーションに今日から活かせる知識であり、有益でした。事例2の審査官と発明者のずれについて、この問題は実は、プライドのぶつかり合いだというのは、言われてみれば納得でした。コミュニケーションが失敗した理由についての本質を捉えていると思いました。事例3では、特許業界特有の事情の話が興味深く、特許業界でも、ヨーロッパ、日本、アメリカなど、国際的な状況や情勢が重要であることが知れました。「Ph.D.を名乗るのであれば、学際的であれ!」と、「ジェネラリストを武器にするという」メッセージは今後の院生生活をする中で重要だと思いました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>院での研究活動を毎日行っているとどうしても、同分野の先生たちとのコミュニケーションが中心の生活を送っているな、と自身の状況を振り返りました。ただ、まったく異分野の方々と交流する機会がないというわけでもなく、セミナーの一環で企業の方とお話したり、また他国出身の先生方とディスカッションする機会もあります。その際には、自身の研究内容をどの様にわかりやすく伝えるのか、その方法を考えることは強く意識していました。しかしながら、相手の意見の傾聴方法(相手の立場で理解できる点はここだと指摘してから、自身の意見を伝える)や、他国の文化や宗教などのバックグラウンドまでは配慮しておりませんでした。研究者としての意識のアップデートは常に行う必要があると考えます。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。日頃から伝え方を意識されていたのですね。意識のアップデートは常に行う必要がある、というのはおっしゃるとおりで、研究生生活で培われた鍛探究心が発揮できる部分でもあるのではないのでしょうか。</p>

第5回コミュニケーション（福所様）_5月13日

博士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>コミュニケーションは心理学的安全性を作り出す（溝の距離を測り、橋をかける）ため、心理学の知識が重要ですか？</p>	<p>ご質問ありがとうございます。学問としての心理学を追求する必要はありませんが、学術書というよりはビジネス書寄りの本などからの知識は、チームメンバーなどと連携していく上でヒントとなることが多いと感じています。</p>
<p>弁理士という普段あまり関りが無いが、研究、特に特許に関して重要な役割を果たしていることが分かった。講義内における、ハイコンテキスト、ローコンテキストの地域性は興味深かった。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。今回お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>コミュニケーションは今後様々な分野で活躍していくうえで、また、私自身が歯科医師として患者さんとかかわる中で最も重要であるといっても過言ではないと思います。現在私は、高齢者歯科に関わっていますが、その中では患者さん自身には判断能力がない場合や、思いを伝えることができないといった方がたくさんいます。そういった例では、ご家族や多職種と相談しながら治療を進めていくことが求められます。当然、より良い医療を行うためにはご家族や多職種の協力が必要不可欠なため、日々コミュニケーション力がいかに重要か実感しています。今回の講義ではハイテキストやローテキストといった国別の捉え方の違いや宗教上の考え方の違い、どこにプライドを持っているかも人によってさまざまなのだと学びました。また、講義最初のコミュニケーションで連想される5単語の例が最もわかりやすかったです。今回の知識をふまえて今後の人生に生かしていきます。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。歯科医師さんですと、コミュニケーションが目指すところも多様かもしれませんね。今回は、特に技術や制度に関して共通認識を構築する視点でのコミュニケーションをご紹介します。もしかしたら、患者さんに対してのコミュニケーションとなると、今回の内容よりもカウンセリング寄りのコミュニケーションスキルが求められるかもしれません。</p>

第5回コミュニケーション（福所様）_5月13日

博士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>異分野・異文化コミュニケーションにおいては、「1.準備」段階での課題の分析(?)が重要であると感じた。講義中の「日本のクリスマス文化をドイツ人のクリスチャンに説明する」例では、先生が「多神教と一神教」という違いに根差したアプローチを取った所が、上手なコミュニケーションの鍵になったと感じた。研究発表の各場面においては、聴衆と自分との違いを見極めた上で臨むよう意識することから始めた。</p>	<p>ご感想をありがとうございました。今回お話させて頂いた内容が、今後のヒントになりますと幸いです。</p>
<p>自分は社会人だが、コミュニケーションについては非常に重要なものだと感じている。特に企画や調整において、広く浅い視野を持つことで相手とのコミュニケーションがスムーズとなり、より密な連携が取れることが多く、仕事を進めやすくなると実感している。特にコロナ渦においてはリモートが主流となってきているが、日ごろからグループワークによるコミュニケーションをとることで、チーム力を高めていくことも重要であると感じた。今後もさらに自分の専門外の知識を増やし、職場内やチーム内での円滑なコミュニケーションを図っていきたいと考えている。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。組織の生産性を高めていくためにもコミュニケーションが重要であることはおっしゃるとおりですね。その意味では、「心理的安全性」というのが今注目されているキーワードと感じております。</p>

第5回コミュニケーション（福所様）_5月13日

博士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>本日は、互いに前提や理解が異なることを踏まえて理解する・伝えるコミュニケーションの大切さを再確認した。ただ、コミュニケーションを取る中でコミュニケーションを取るための知識やスキルが必要である一方、それらと伝えたいことおよび真実との区別が難しいと感じた。今後国際的に活動する場面が一層増えていくが、ハイコンテクストな背景に身を置いているという強い実感があるため、また専門分野以外を勉強する試みをほとんどしてこなかったため、コミュニケーションを取るためのコミュニケーション／自分が伝えたい真実をはっきりと区別ができるように、浅くあっても広く、あらゆる方向にアンテナを立てること、常に知ろうとする・理解する気持ちでいること、また気遣いやおもいやりなどの真心の部分の3点を大切に考えていきたい。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。個人的には、ハイコンテクストな文化に身をおいているメリットはあると思います。それは、言語外からも相手の状況を把握しようとする姿勢が自然ととれるということです。それを言語化してローコンテクストに変換できると強いのではないかと考えています。</p>
<p>コミュニケーションの論理的なプロセスとして、「適応課題」への対処ステップで準備、観察、解釈、介入と挙げられてとても分かりやすく理解できました。自分の専門性を軸にしつつも、多様性を受け入れるという面が非常に大変かと思いました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。確かに、多様性を受け入れる部分は根気のいる部分かもしれませんね。一朝一夕にならずじっくり取り組む課題かと思います。</p>
<p>ゼネラリスト思考を持つべきというのは、正に私に足りない視点だと感じました。論文を読むことが趣味である私ですが、インパクトファクターの高い参考になりそうで興味のある関連分野の論文しか読んでいません。しかし、以前参加した学会での質問をきっかけに異分野の論文を読み、現在の研究の応用案を思いついた経験があります。このようなことからイノベーションが生まれるんだなと本講義で改めて思いました。今後、普段からコミュニケーション力を養成し、ゼネラリスト思考とスペシャリスト思考を持ち合わせた研究者を目指したいと思います。</p>	<p>ご感想ありがとうございます。一朝一夕に身につくものではないですが、意識することで経験とともに少しずつ身につけていくものと思います。講義がそのきっかけになりましたら幸いです。</p>

博士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>ご講演ありがとうございました。とても楽しく聞かせていただきました。質問も直接お聞きできて良かったです。別の講演者のときも同じことをお聞きしたのですが、過度な特許取得は逆に自由な研究活動の障害の一部になり得る可能性があるように思えるのですが、その点について何かお考えがあるのか気になります。</p>	<p>ご質問とご感想をありがとうございました。 ご質問の点ですが、特許権というインセンティブがなければ、特に企業からの研究成果はノウハウとして隠され、社会が技術進歩の恩恵が受けられないかもしれません。大学研究は論文等で発表することが使命ではありますが、企業との連携により研究費を確保したり、さらにその技術を社会実装するために企業との連携（資力・マンパワーともに）が不可欠なのではないでしょうか。そうすると、企業の論理も受け入れつつ研究をすすめる道を模索するのが結果的にwin-winの関係となり得るように思います。 また、特許庁としても立証されたデータに基づいて、不当に広い範囲の権利を付与しないよう、慎重に審査を行っています。「過度」がどの程度を意味するかによりますが、このあたりはバランスであろうと思います。</p>
<p>お恥ずかしながら、弁理士という仕事を今まで知らなかったのですが、専門性とジェネリックスキルを活かせるとても魅力的な仕事だと感じました。副所先生は生物工学系で博士を取られたと伺いましたが、周りの博士仲間たちは研究職での企業就職やアカデミアに残る方が多かったと思います。副所先生はなぜ、いくつか選択肢のある中から弁理士という仕事についてのか教えていただきたいです。また弁理士の仕事について今日知り非常に魅力的な仕事に感じたので、自分も今後のキャリア選択で弁理士という選択肢も考えたいと思いました。そこで副所先生は、弁理士にはどのような人が向いているとお考えでしょうか。</p>	<p>ご質問をありがとうございます。弁理士という仕事を選んだ理由ですが、私も元々はアカデミア志望でしたが、任期付きのポストが多かったり、ポストが空けばどこへでもいく覚悟が必要と思われたため、技術の知識を駆使しつつも定住できる仕事として特許の世界に魅力を感じて飛び込みました。 弁理士に向いている人ですが、自分の専門にこだわらず広い範囲の技術に対応する意欲のある人（私は生物工学が専門ですが、特許の世界では医薬品、食品、分析方法など、化学・生化学系の案件を広く扱っていました）、縁の下の力持ちの働き方が好きな人、デスクワークが好きな人（論文など文書作成が好きな人）、英語が苦にならない人、などが向いていると思います。</p>

第5回コミュニケーション（福所様）_5月13日

博士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今回私は初めて「弁理士」というキャリアをもつ先生のお話を聞くことができ、研究者にとってのコミュニケーション力の重要性を痛感しました。他領域のコンテキストにも目を向け、浅く広く知識を吸収することは、以前までは遠回りのような気がしていたが、コミュニケーション力の向上というかたちで研究の発展につながる近道なのかもしれないと感じました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。「広く浅く」に関しては、一見遠回りにみえることが一番の近道だった、ということもあるかもしれません。小さいことの積み重ねが10年後にものをいう、そんな感じではないかと思います。</p>
<p>知識が浅い時点で発言すると知ったかぶりをすると思われるため、知識を深く知ってから発言をしなければならないと今まで思い込んでいましたが、そうとは限らないと感ずることができました。思い込みや勘違いで失敗することがあるので、好奇心を持ちつつ、自分の価値観だけで物事を判断するのではなく、幅広い知識を吸収して、人と接していこうと思いました。コミュニケーション力を高めるために必要なことは準備→観察→解釈→介入というステップを踏むということを知り、勉強になりました。そのステップを踏みながら、ゼネラリスト視点を持てるように努力していきます。また、年齢を重ねるにつれて新しい出会いは自分の人生を豊かにしてくれるものであると気づいたため、縁を大切にしていこうと思います。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。おっしゃるような、日本ではきちんと理解して発言すべしという風潮がありますね。知ったかぶりはよくないですが、逆に好奇心をもって質問をされると、聞かれた側も自分に興味を持ってもらっていると感じて、案外嬉しいのではないのでしょうか。</p>

第5回コミュニケーション（福所様）_5月13日

博士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>日常的に研究室で研究に取り組んでいると、その研究室内で議論を交わす機会はあるが、それはその研究分野の中だけにとどまってしまう。特に、コロナ禍において他の研究室との直接的なやり取りは少なくなり、異分野に触れる機会は限られている。しかし、本講義を受けて今後、研究を進めていくあるいは社会に進出していくにあたって異分野についても広く触れていくことが大切だと感じた。新型コロナウイルスによる昨今の情勢は、直接的な人との関わりを減らした一方で、オンラインを通じた遠距離の人との交流を容易にした。まずはそのような交流もりようしつつ異分野のことも広く知っていきたいと感じた。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。今回の機会が視野を広げるひとつのきっかけになりましたら幸いです。</p>
<p>ハイコンテキスト、ローコンテキストの概念が興味深く、勉強になった。一方で、すこし声が聞こえにくかった。</p>	<p>ご感想とご指摘をありがとうございます。今後の改善点にしたいと思います。</p>
<p>現代社会において、特に子どもを中心としてコミュニケーションが円滑に進められないと肌感覚で感じており、そこに対しての疑問が募っていたため。</p>	<p>コメントありがとうございます。子どもさんとのコミュニケーションということだと、今回の話は少しずれてしまったかと思います。子どもとのコミュニケーションに関して言えば（私自身は小学生の子供の親でもあるのですが）、じっくり寄り添いながら聞くことが大切であると感じています。大人にとってはなかなか忍耐力を要する部分でもあるのですが…。</p>
<p>講義内容は非常に興味深かったが、マスクかマイクの問題なのかは定かではないが声が聞き取りにくい点があり、内容をすべて理解することができなかったのが残念でした。</p>	<p>ご感想とご指摘をありがとうございます。今後の改善点にしたいと思います。</p>

第5回コミュニケーション（福所様）_5月13日

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>本日の講義で、スペシャリストにもコミュニケーション力が必須であるというお話が非常に印象に残りました。そのためには、4ステップとして準備、観察、解釈、介入を身に着けるだけでなく、その制度を高める必要があるということで、これから心がけていきたいなと感じます。特に、大学院で専門分野を少人数で行う機会が多いため、他の分野について様々な方からお話を聞く機会はあまりありません。そこで自主的に行動を起こし、農学分野以外の方からのお話を聞く機会を積極的に持っていきこうと思います。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。今回お話させていただいた内容が少しでも視野を広げるきっかけになりますと幸いです。</p>
<p>失敗から学ぶ姿勢が大事であるということが1番印象的だった。そのようにした方が心理的にも余裕が生まれるし人としての幅が広がると感じた。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。学生時代は試験で測られる経験が多かったからか、物事に「正解」があるように錯覚しがちでした。でも、実は失敗というのは多くの学びを与えてくれるもの、ということを感じています。</p>
<p>相手のバックグラウンドを理解していたつもりでも、相手が専門分野についてどの程度理解しているのかということも考慮してコミュニケーションを取る必要があるため、価値観が違う人と話す場合は始めは誰にでも分かるような説明を心がける必要があると感じた。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。コミュニケーションというのは動的なものかもしれません。相手のバックグラウンドについて予備知識をもつのも大切ですが、同時にコミュニケーションをとりながら認識を微修正していく柔軟性も大切ということは常々思います。</p>
<p>私は自然科学研究科情報工学専攻です。主に分子生物学を専攻しています。私は先生と反対でプログラミングやネットワーク処理を勉強した後に生物学分野のゲノム情報をプログラミングを用いて解析しています。私はtRNAの研究をしています。tRNAを文字列で見たことはありますが実際に見たことはありません。そのためいま興味湧かないことがあります。先生の経験談で構いませんので何か興味を持つ心構えのようなものはございますでしょうか？</p>	<p>ご質問ありがとうございます。in silico系のご研究なのですね。私が興味を持つうえで心がけていることですが、資料を読んだり可能な範囲で現場を見せていただくこともそうなのですが、一番大きいのはその前提として「目の前の人々が研究成果がでて嬉しそうだけど、それはどんなことだろう？」と考えることだったりします。</p>

第5回コミュニケーション（福所様）_5月13日

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>コミュニケーションについての講義を聴講し、普段聞くことはできない貴重なお話であり、学ぶべきことが多くありました。スペシャリストがより活躍していくために重要なこととして幅広い識、コミュニケーション力が必要であります。コミュニケーション力を高めるために必要なこととして、自分の専門性を軸にしつつも、異分野のことも広く浅く知る、背景の違いを知る、（準備のため）多様性を受け入れる、心理的安全性を作り出すこと（溝の距離を測り、橋を架けるため）が重要であるということを知りました。また、どんな職業に就くにあたってコミュニケーション能力は非常に大事であり、今後社会人として働く上で、チームで働く力を身につけていきたいと思いました。</p>	<p>ご感想をありがとうございました。今回お話しさせていただいたことがこれからコミュニケーション力をさらにみがいていくきっかけになりますと幸いです。</p>
<p>今回の講義では、社会人としてコミュニケーションの大切さについての講義だったが、現代においてイノベーションは、他分野に渡った異なる技術の組み合わせで起こることが増えていて、技術者としてコミュニケーションの重要性が改めてわかった。自分は人とコミュニケーションをとるとき、スムーズに行えないことが多く、コミュニケーション力を高めるために必要なことの中の説明にあった「自分の専門性を軸にしつつも、異分野のことも広く浅く知る」という部分が自分には不足していると感じた。世の中の様々なことに興味を持つこと、様々な分野の人と交流することが必要になると思うので、自分の興味があることを軸に色々な知見を広げていきたい。</p>	<p>ご感想をありがとうございました。今回お話しさせていただいたことがこれからさらに視野を広げるきっかけになりますと幸いです。</p>
<p>研究が細分化して、その内容が認知されるためには、互いのおかれた背景が違うことを意識しなければならないことが分かりました。特に理系分野ではそれが顕著に表れると思うので、発表等の機会ではそれを意識して行うようにしようと思います。</p>	<p>ご感想をありがとうございました。今回お話しさせていただいたことが、少しでもお役に立てますと幸いです。</p>

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今回の講義はコミュニケーションについてでした、特許を取得するなどのイノベーションを起こすには自分の専門分野だけではなく他の分野と組み合わせる必要があることがわかりました。自分と異なる分野の人と協力する際には自分の分野の常識が他の分野の常識ではないことを認識する必要があるとわかりました。それらをより上手く行うために他の分野人の背景や歴史などを理解することと、また自分の分野以外の広い知識が必要であることが勉強になりました。自分が人の上の立場になった際には本日の講義で習ったことを活かしていきたいと思いました。</p>	<p>ご感想をありがとうございました。今回お話をさせていただいたことが、少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>コミュニケーション論ということでお話を聞いたが、日本国内の話にとどまらず海外と日本の違いなども踏まえての話が多く、もっと自分の視野を広げないといけないと感じた。また、他分野のことにも興味を持つということは自分が最近感じていることであり、より意識して他分野の知識を取り入れようと思った。</p>	<p>ご感想をありがとうございました。今回お話をさせていただいたことが、さらに視野を広げるきっかけになりますと幸いです。</p>
<p>異文化理解のためのコミュニケーションについて、相手の背景について理解をすることが重要だと分かった。その理解のためには、様々な知識を学習する必要があることが分かった。海外勤務の可能性のある企業に就職するので、非常に勉強になった。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>一言でコミュニケーションと言っても求められる要素は非常に多岐にわたることが今回の講義を通して完全ではないですが理解できました。それぞれの認識の溝に気づき溝に橋を架けることがお互いの相互理解のために必要であり、そのためには専門性を軸にしつつも異分野の知識を集め、背景の違いを洗い出していくこと、文化圏が異なればその文化について学ぶなどの多様性を受け入れる心構えや準備、知識が求められる。コミュニケーション一つをとっても相手との相互理解のためには非常に努力が必要となるのだと思いました。</p>	<p>ご感想をありがとうございました。確かにコミュニケーションのためには努力が必要ですが、一朝一夕にはならないものだけに、少しずつ高めていけばよいと思います。</p>

第5回コミュニケーション（福所様）_5月13日

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>弁護士の役割について詳しく知ることができた。また一つの専門的知識のみでは生き残れないことも学ぶことができた。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。技術革新の進む社会では常にアップデートが求められますね。個人的には「ピボットターンのような展開を楽しむ」という捉え方をしています。</p>
<p>相手とのコミュニケーションを図る際は相手の事情を考えて発言したり作業を考えたりする必要性があると感じた。コミュニケーション能力として友達を作るための能力と仕事を進めるうえで必要な能力に大別されると分かった。将来必要なのは後者であると思うのでそれを重視して今後立ち回りたいと感じた。ゼネラリスト思考、それほど深い知識がなくてもメンバーの話を理解して合理的な判断を下すスキルは仕事のみならず異分野の友人との交流にも役に立つかなり汎用性の高いスキルだと思うので身に着けたいと思う。それだけでなく、簡単にでもいいので異分野の知識を身に着けておく必要もあると感じた。コミュニケーション力向上のために心理的安全性として失敗から学ぶ姿勢とあったが失敗を責められる環境下では心理的に難しい可能性もあると思う。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。ご指摘のように、失敗を責められる環境下でパフォーマンスを発揮していくのは難しいと思います。ここは多分に管理する側が心がけていく問題ではあります。しかし、一方でそうした「在り方」は一朝一夕に身につくものではありません。若いときから「自分が人をまとめていく立場になったらこうありたい」ということを意識していくこともまた、大切なのではないかと思う次第です。</p>
<p>異文化の人とのコミュニケーションのお話とても参考になりました。ありがとうございました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>弁理士という職業について詳しく知らなかったが、科学技術と特許をつなぐために重要な役割を果たし、異なる属性の人々と接する機会が多い仕事だと学んだ。コミュニケーションは、これからの社会人に必須のスキルであり、イノベーションにも、コミュニケーション力が必要である。異なる技術の組み合わせによって生まれるため、自分の分野の常識が相手の分野でも通じるとは限らない。「コミュニケーション」という言葉から連想するものも、自分で考えたものとはほかの人が考えた例を見て全く異なり、驚いた。「進歩性欠如」という言葉を受け取った研究者から怒りのメールが届いた例も印象的だった。難しいからといって専門外のことを知ろうとするのを諦めてしまうことが多くあったが、まずは知ろうとすることが大切だと知った。歴史を知っていることで相手のコンテキストを知ることができるなど、広く浅く知っておくことも重要だと学んだ。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。言葉から連想するものが違うということは、実は細かいことでも意外と人それぞれの価値観を持っているということだったりします。自分にとっての当たり前が相手にとっては必ずしもそうでないかもしれない、という前提がコミュニケーションの始まりかもしれないですね。</p>
<p>ドイツ人の弁理士が来日した際、クリスマスを祝う日本人を不思議に思った話を聞きコミュニケーションの大切さを改めて感じました。私だったらどう伝えるだろうと考えた結果、日本人はイベントが好きでクリスチャンでなくてもクリスマスを祝う習慣があると伝えていたと思います。しかしながら、後の解説を聞き、厳格なクリスチャンの人は、自分達の大事な行事を単なるイベントとして楽しむ日本人を怪訝に思うことが想像できました。知識がないと誰かを傷つけてしまう可能性があるため、懸命に勉強をしていきたいと思いました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。世の中のすべてのことを知っておくことは難しいですが、相手を知ろうとすることや思いやる気持ちと、少しの知識がコミュニケーションを円滑にしてくれるように思います。</p>

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>コミュニケーションで連想した単語は、リレーション、関係、会話、つながり、議論でした。自分の大学での研究活動を考えた時に、今まで自分が担当している分野の知識ばかりを取り入れようとしており、ゼネラリスト思考が足りていないことに気付きました。また、初めてコミュニケーションを取る相手に対してラポール形成のお話で大事だと言われていたことも今まで意識できていなかったと思いました。これからは良いコミュニケーションを取るために相手の分野について何も知らなくても自分なりに勉強して理解する努力をしていこうと思いました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。おっしゃるように、相手の分野について知っていることが大切なのではなく（知っていればそれに越したことはないですが）、相手の取り組みに興味がある、理解しようとしているという姿勢が一番大切かと思います。また、そういう姿勢は案外と伝わると思います。</p>
<p>異分野について知るためのコミュニケーション力が今求められている。自分の専門性を軸にしつつも、異分野の内容に関しても浅く広く知識を得ることによって新たな発見が出来るかもしれない。またコンテキストを知ることで、問題が見つかる。多様性を受け入れ、心理的安全性を作り出すことで問題を解決することができる。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>異文化には国の違いだけではなく分野の違いもある事は知らなかった。異文化コミュニケーションという言葉があるように異文化の人に対しては意識的にコミュニケーション方法を変える必要があると思うが、分野の違いを異文化と認識しないでコミュニケーションを取ることで弊害が生まれるのだと思った。専門性が増すほどその分野以外の事に対しての誤解も生まれやすくなると思うので広い視野と専門外の知識も備えたいと感じた。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。「企業文化」という言葉があったりしますが、細かいところでは組織や部署が違うだけでも価値観が違ったりします。そこを乗り越える広い視野を身につけられるきっかけとして、少しでもお役に立てますと幸いです。</p>

第5回コミュニケーション（福所様）_5月13日

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今後の人生で認識のズレに遭遇することが多々あると思いますが、相手の立場を考えてわかりやすいように自分なりにフォローすることが大事だと思いました。想像力を働かせて相手の価値観を尊重していくようにしたいです。専門的な勉強をしていると興味を持つ範囲が狭くなりがちなので、違う分野の人々と交流したりインターネットや本で調べたりして異なる分野の知見を広げていきたいと思いました。質問なのですが、弁理士のお仕事で海外の方とお話しされる際は弁理士の方自身が英語で話しますか？それとも通訳の方がいる場合がありますか？</p>	<p>ご感想とご質問をありがとうございます。ご質問の、弁理士の仕事で海外の方と話す場合ですが、基本的に弁理士自身が話します。ただ、権利取得の際の主張内容などは、並行して書面でもやりとりしており（言った言わないの議論をさけるために、必ず書面で指示する商慣習です）、その際はネイティブのチェックを受けるなど疑義がないようにしたりします。</p>
<p>異文化コミュニケーションについて弁理士としての経験をもとに話されていてわかりやすかった。弁理士という仕事を知らなかったため興味が湧いた。自分自身はスペシャリスト的な職業に就くのか悩んでいたのも一つの可能性として参考になりました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>異文化(異分野)間でのコミュニケーションについて、いくつか思ったことがあったので述べたいと思います。以前、自分の研究室の教授の授業で日本はものづくりは強いのに売り出し(アピール)が弱いということを仰っていました。理系全般がコミュニケーション能力が低いということはないと思うが、どうしても視野が狭まってしまうため、プレゼンが弱くなる。そのため文系(異分野)とのコミュニケーションを通じて、社会に求められるものが何かというゼネラリストの視点を持ち合わせていく必要があると感じました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。ご指摘の点、ごもっともかと思います。企業内でも例えば、研究部門と営業部門の意見の相違ということがあったりするようです。技術を開発することもすごいことですが、それを世に出回らせることもエネルギーのかかることだと思います。それをお互いに認めことで、互いの良さが引き出されるのではないかと思います。</p>
<p>コミュニケーション能力は社会人に必須であることはわかっていたが、イノベーションにも必要不可欠であることがわかった。コミュニケーション能力を高めるためにゼネラリスト思考を高めていこうと思いました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>コミュニケーション力は文系理系に関わらず、どんな分野でも必要な分野だと考えられます。どんな仕事においても人と関わる部分が少しでもあれば、伝えたいことを伝える力が必要です。本講義を受けて、コミュニケーション力の重要さやそれを身につけるためには、興味を持って幅広い分野の知識を広げることが一番大事だと感じました。今後、研究活動をする際や仕事を行う際に意識していきたいと思います。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。今後お仕事をされるうえで、お伝えしたことが少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>今回の福所しのぶさんの講義を受け、コミュニケーション能力について、改めて考えさせられました。現在のvuca時代や、チームで働くことになる今、コミュニケーション能力はこれからの社会に必須のスキルだと感じました。また、友達を作るコミュニケーションではなく、気が利く、先が読める、考えていることを理解しようとするのがとても大事だと感じました。また、一つ質問なのですが、講義内で特許を取るには法律を知っていないといけないとおっしゃっていたのですが法律は今のうちに学ぶべきでしょうか。それとも必要になったらでも構わないものなのでしょうか。お願いします。</p>	<p>ご感想とご質問をありがとうございます。法律を学ぶタイミングですが、学びたいと思ったときがベストかと思います。ただ、いきなり専門書・法律書から入るのはおすすめしません（指導してくださる方がいるなら別です）。技術者・研究者向けに特許制度を紹介しているような一般書で概略を掴んだほうがよいと思います。ちなみに、私自身は、特許事務所の採用内定をもらったときに勉強を始めようと思ったのですが、大学の図書館にあった専門書の内容がちんぷんかんぷんで在学中の知識インプットをあきらめた経験があります（苦笑）。</p>
<p>先生が最後に仰ったスペシャリストであってもゼネラリストの視点を持つ必要性の重要性を学んだ。そのためには、スペシャリストであっても幅広い知識を持ちコミュニケーション力を高めるためにも準備・観察・解釈・介入の精度を高める必要性があると感じた。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。今後お仕事をされるうえで、お伝えしたことが少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>はじめにコミュニケーションに似ている言葉を考えるというワークの際に、ほとんどの人が完全に一致することがないということで、同じ言葉を使っても連想することや捉え方は異なり、そのことを認識して人と関わるのが大切だという内容が強く印象に残りました。言葉のみならず文化なども人それぞれ違い、異なる文化や業種の人と交流し、新たな考え方を知ることを進んで行いたいと感じました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。ワークが印象に残ったんですね。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>

第5回コミュニケーション（福所様）_5月13日

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>自分の研究室の中でも担当している分野の異なる研究をしている方がおり、自分の研究を発表する際にはわかりやすいようにと指導があり、そのことに関して深く考えていなかった。しかし今回の講義で、自分の将来に役立つものだとして改めて学ばせていただきました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。同じ研究室の中でも様々な分野の研究に取り組まれているんですね。私自身、境界領域で、様々な分野の手法を利用する研究室でしたが、そのことが様々な分野を扱う際にとっても役に立ったと実感しています。ぜひ今の環境を大切になさっていただければと思います。</p>
<p>コミュニケーションというのは、言葉そのものの意味だけのローコンテキストと、いわゆる行間を読むというハイコンテキストの2種類がありますが、時と場合・相手によって使い分けることがコミュニケーション向上に繋がることがわかりました。相手とよいコミュニケーションをとるためには、相手を尊重しているということがよく伝わるようにすること、また、自分の行動を相手がどう思うかについて考えることが相互理解には重要であるとも理解できました。イノベーションとは適応課題でありゼネラリスト思考を鍛えることが大切だということですが、創生学部で学んだマネジメント能力に似ていると思いました。創生学部でも、多角的視野を重要視しており、また様々な専攻の学生が在籍しているのでそれぞれの意見を取りまとめ、より現実的に問題解決を図るにはどうしたらよいかということ学びました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お伝えしたかったゼネラリスト思考は、まさにマネジメント能力を磨くことに通じると思います。多角的視野を重視して実践できる環境にいらっしゃるのは素晴らしいですね。</p>
<p>ただがむしゃらに研究するのみだとゼネラリスト思考は身につかないので多角的に普段から物事を考える努力をしようと感じた。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>

第5回コミュニケーション（福所様）_5月13日

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>不確実性が高く、どんどん若くて技術を持った人が増えていき、チームで働いていく機会も当たり前になっている社会の中で、コミュニケーションの重要性というのは増していくと思った。また、日本が世界と競争していく中で、イノベーションは必須になっていく。現在は、かつては日本が輝いていた分野も海外企業によってほぼ独占状態になっているようなことも少なくなく、それらを取り戻し、新しい分野でも日本が先を行くためにも、他分野とのコミュニケーションを積極的に取り、理解していく姿勢を持っていきたいと思った。そして、自分の専門分野に限らず、様々な分野についてもアンテナを張り巡らせ、広く学んでいきたい。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>異なる立場の人とのコミュニケーション力を高めるためには、立場の違いを理解し、相手のバックグラウンドを知り、理解することが必要であることが分かりました。コミュニケーションはどんな立場の人とでもできる相手のことを知る手段の一つであり、とても大事であると再認識させていただきました。色々な人と会話するなど、幅広い知識を得続ける必要であることが大切であることが分かりました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。今回お話をさせていただいたことが少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>今回コミュニケーションについての講義を受けて、コミュニケーションは自分が話せるというだけでなく、相手についての理解、相手の立場というのが非常に重要だと感じた。自分の専門の研究をしているからそれでいいというのではなく、ほかの分野の方や企業の方とともに計画を進めるために相手の分野や性格状況を考えて行動していくことが重要だと感じた。こういった力は就活でも生かすことができると思うので日ごろから意識していく。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。プレゼンなど、話す技術も確かに必要ですが、その前提として相手が求めているところに自分がどのように関わられるのかを示すのが肝要なのではと思います。それが相手についての理解から導き出せるものだったりします。そういう意味では、まさに就活も同じかもしれませんね。</p>

第5回コミュニケーション（福所様）_5月13日

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>コミュニケーションに関連する言葉を5つ書き出してみましたが、友達とほとんど被っていませんでした。思考や語彙が人によって様々であることが改めて確認できて面白かったです。心配的安全性が高いとチームのパフォーマンスが上がるという話を聞き、相手を尊重する気持ちや失敗から学ぶ姿勢を今まで以上に大切にしていきたいと思いました。傾聴という言葉は初めて聞きましたが、日常生活において非常に大事な行動であると思いました。社会に出たのちのコミュニケーションについてもたくさん学びましたが、まずは普段の友人関係や先輩後輩との関係におけるコミュニケーションで相手を思いやる行動を心がけていきたいと思います。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お友達と5つの言葉をシェアされたのですね。同じように捉えているようで微妙に違う、そのすりあわせからコミュニケーションは始まるのかもしれませんが。</p>
<p>今回の講義を通して、コミュニケーションを円滑にするために重要なことは何か知ることが出来た。まずは、相手の文化や背景の違いを理解し、受け入れることが重要だと分かった。特に外国の方は宗教観が日本人と大きく異なるため、気を遣う必要があると感じた。これから、どのような人と関わっていくかわからないので、様々な面に興味を向け多くの知識を身につけておくことが大切だと感じた。次に、相手の研究や興味があることに自分も興味を持つことでコミュニケーションが円滑になることを学んだ。相手の話を興味深く聞くことはとても重要だと感じた。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。実は、会話において宗教や政治の話というのはタブーの一つだったりします（例えば、米国人同士で民主党派か共和党派かを積極的に話題にすることはありません）。ですので、こちらから積極的にタブーに突っ込んでいうことはおすすめしません。でも、たまに旅の開放感からか、東洋への興味からか、質問されることもあるので、時事問題の知識と同様の感覚で予備知識を入れておくという感じです。</p>

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>大学院に入ってほとんどの時間研究に携わっており他のことに関しての知識が浅はかになりつつあったのですが、講義を通して、コミュニケーション力を高めるためにも異分野のことも広く浅く学ぶ必要があると実感しました。私は将来、外国の方との関わりを持ちたいと考えているのでリベラル・アーツについてもっと積極的に学んでいかないとと思いました。日本人は空気を読むし自分の意見を直接的に表現しないので、外国の方とのコミュニケーションに工夫が必要であると感じました。大学院でも2年間を通して、ゼネラリスト思考を身につけたスペシャリストに近づけるような生活をしていきたいと思えます。弁理士をやっている1番やりがいを感じた時や1番辛いと感じた時について知りたい。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。 弁理士をやっている一番やりがいを感じるのは、やはりクライアント・発明者の方が喜んでくださるときです。例えば、作成した明細書について、発明者が自分の意図を十分に汲んでくれたと評価してくれたときや、クライアントにとって重要な案件を特許にできたときなどです。 一番辛いと感じたときですが、特許の取得手続きは行政が相手なので、期限は非常に厳しいです。特許事務所ですと、それを平均して常時10～20件ほど同時進行で回します。時間をジャグリングしているような感覚で辛くなる時があります。</p>
<p>私はオーストラリアにワーキングホリデービザで滞在していた経験があり、そこで様々な国の人と出会いました。語学学校にも通っており、授業の内容で、自身の国の文化や宗教を題材に会話をするというものがありませんでした。その際、日本の文化や宗教に対する一般的な考え方を「相手」を考えずに話したら、嫌な顔をされたことがありました。本日のお話の中で、ドイツ人に日本のクリスマスについての説明しことを例に、「相手」を考えたコミュニケーションが大事ということを教わり、とても良い学びとなりました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。オーストラリアで貴重なご経験をされたのですね。日本人にありがちな「無宗教」は、宗教をもっている外国の方からするとかなり異質に捉えられますよね。無宗教＝神様あるいは何か大いなる力への畏敬の念がない＝道徳心がない、と捉えられるからのようです。そういう意味では、日本人の場合、文化の中に宗教観が入り混じっているという話を読んだことがあり、参考にしています。</p>
<p>弁理士である立場からコミュニケーションについて掘り下げて行っていて、非常に興味深い講義でした。異文化コミュニケーションにおいても、相手のことを理解することが大切であり、そのためには専門知識だけでなく、幅広い知識が必要であることを学びました。また、コミュニケーションとは関係ありませんが、弁理士という仕事そのものの話も面白かったです。特許申請における橋渡しの難しさがわかりました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。弁理士のしごとの話を含めて、お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今回の講義を通して、コミュニケーションを取ることが大切であることが分かった。異なる技術や分野の組み合わせでイノベーションがもたらされ、新たな価値が生まれるが、異なる技術や分野の間にはギャップがあり、これが大きい場合がある。このギャップを埋めるためにはコミュニケーションを取り、互いを理解し合うことが必要となる。そのため、コミュニケーションは大切なのである。また、ゼネラリストの思考も大切であることが分かった。専門家ほど深い知識はなくても話を理解し判断できるのがゼネラリストの思考である。この思考を身につけるために幅広い知識とコミュニケーション力を身につけたいと思う。幅広い知識を身につけるために好奇心を持って異分野のことを広く浅く知ったり、多様性を受け入れたい。コミュニケーション力を高めるために、様々な人と交流したり、リベラルアーツを身に付けたりしたい。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>ゼネラリスト思考を今のうちから意識して生活することで、いざ自分の意見を通すことができる場になったときに、より質の高い意見を述べることができると思いました。広く浅い知識と高いコミュニケーション力の2つの武器で、働くのはかなり勇気のいることだと思います。しかし、深い専門知識は必要ないと安心することもありました。「プライドの高い専門家の方々をつなぎ合わせる」ということの価値の高さを実感できました。日頃から自分の専門だけでなく、世間の教養を積極的に学んでいこうと思いました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。ゼネラリスト思考をもつことで、より質の高い意見を述べることができる、というのはおっしゃるとおりです。これは、ゼネラリスト思考を持つことで、より広い視野から、あるいは高い視点から俯瞰して、関係者が納得しやすい解を導き出せるからではないかと思います。</p>

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>私が本講義を通して、自分自身に今後必要なコミュニケーション力について考えることができた。今までは講義内のワークでもあった、コミュニケーションと聞いて連想されるような言葉を持つイメージが強かったが、講義を聴いてコミュニケーションとはどのようなものか、技術分野において必要な知識を習得することができた。直近だと研究や就職活動であったり、社会に出た後だとチームで働いたりと一生涯必要な力であるといえる。特に、「イノベーションにはコミュニケーション力が必要」である話は非常に興味深かった。イノベーションについては以前の本講義で学習したが、それと合わせて理解することで、どのようなコミュニケーション力を身につければよいか考えやすくなった。気になった点は、コミュニケーション力を高めるために必要なことの紹介があり、相手や場面によって変化させていくべきであると感じたが、その上で気を付けるべきことをお聞きしたい。</p>	<p>ご感想とご質問をありがとうございます。 相手や場面によって変化させる上で気をつけるべきことですが、まず相手をよく観察する、相手の話をよく聞くことでしょうか。そして自分が伝える側のときは、相手の状況がよくわからない段階では自分の主張を押し通すような断言は避けつつコミュニケーションしていき、共通の利点を模索していくことを意識するとよいのではと思います。</p>
<p>幅広い知識を手に入れることの重要性がわかった。新潟大学のような多くの学部が存在し、幅広い授業が開講されている大学はそこが強みだと考える。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。多様性を活用できる環境が身近にあるのは素晴らしいことだと思います。</p>

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>貴重な講義ありがとうございました。最初におっしゃっていたように今の世界はVUCAと呼ばれるような社会環境になっており、SNSがとても普及して迅速に情報が飛び交うような複雑なものになっていると思います。そのため、世界での出来事や、多様な分野の事柄がその場でスマホを開けばすぐに知ることのできる環境だと実感しています。その中で、どのようにして自分を発信して他人に自分のことを知ってもらうか、ということも大事だと思いますが、逆にそれだけを意識してしまうと、いつか今でいう「地雷」を踏んでしまう可能性が増えてしまうのではと思いました。従って今回のお話にもあったように、大前提としてまずは相手の背景・価値観を知った上でコミュニケーションをとっていくことがいかに大事なことを改めて感じることができました。そのことを意識して、自分はさまざまな多様性の架け橋のような存在になりたいです。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。 私も現在の仕事柄、SNSの発信にも取り組んでいますが、「承認欲求」も絡んできますのでバランスは大切です。 「多様性の架け橋」でイメージされるものは色々かと思いますが、一ついえるのは架け橋は案外、草の根活動が大切ということかと思いますが、SNSでの不特定多数への発信（それも配慮は必要ですが）と、仕事の連携のコミュニケーションを考えると、その深さが少し変わってくるかもしれません。</p>
<p>本日は、貴重なお話ありがとうございました。これから、就職などで社会にでる上で、自分と異なった環境や知識をもつ人との交流が必要になってくると思います。今回のお話で学んだことを踏まえて、相手の話の聞き方、質問の仕方、自分の意見の伝え方など、表現を工夫してコミュニケーションを磨いていきたいとおもいます。</p>	<p>ご受講ありがとうございます。ぜひ、相手が求めていることは何か、ということ踏まえてコミュニケーションを磨いていただければと思います。そういう前提は就活にも役立つと思います。</p>
<p>人と親密になったり喋りが上手くなったりすることだけでなく、今日の講義で話されていたように相手の立場に立って思いやりを持って接することがコミュニケーション力だと考えれば、自分の中での「コミュニケーション力を上達させる」ことへのハードルが下がりそうだった。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。コミュニケーション力に対するハードルが下がりそうと思っていただけてよかったです。私も話下手な方ですが（年齢と経験で度胸がついただけです）、話下手は逆に熟考して確実なことを言うというメリットがあると思っています。</p>

第5回コミュニケーション（福所様）_5月13日

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>良いコミュニケーションは、相手の知識量や、ハイコンテクストが良いのか、ローコンテクストが良いのかなど人によって変わる。相手に合わせたコミュニケーションをすることが大切だと分かった。また、コミュニケーションの取っ掛かりとして、相手との共通の話題を持っていることが重要である。なので、幅広い知識を持った、ゼネラリストを目指していきたいと思った。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。ご指摘のように、相手との共通の話題をもっていることはコミュニケーションをスムーズにしますね。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>研究者やイノベーションを起こす立場でなかったとしても、社会で生きていくのにとっても重要な、あると良い考え方についてお話しいただき、とても勉強になりました。私は課外活動で、今回お話しいただいたようなゼネラリスト思考を訓練するような機会が日頃から多いと感じていました。研究関連で、そのようなことがあると感じることはあまりないのですが、今後の就職活動や、他分野の人と交流する際に意識していきたいと思えます。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。課外活動でゼネラリスト思考を訓練するような機会が多いとは素晴らしいですね。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>仕事におけるコミュニケーションでは相手の状況を考え信頼を得ることということでした。近年では既存の知識で解決できる技術的な問題よりも関係性が問われる適応課題がより重要となるかと思えます。そのための対処ステップで準備、観察、解釈、介入が大切なのはわかりました。実際に例に出してご説明いただけて非常にわかりやすかったです。社会にでて同様の事象はきっと少なく、違う状況で対処しなければならないと思えます。その時々状況に対応できるか不安です。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。おっしゃる通りに社会に出ると違う状況で対処する必要があります。ここは応用力が問われるところですので、相手の立場や求めているものを把握して対応を考える、という本質を意識していただきたいと思います。</p> <p>また、社会にでてすぐに一人ですべてを判断する場面は少ないと思えます。上司や先輩のやり方を見ながら、対応した結果だけでなく、なぜそういう判断に至ったのかという本質部分に目を向けるようにすると応用力も高まっていくと思えます。</p>
<p>相手への理解を示しながら説明することや、相手の目を見て話を聞く、状況に応じたボディランゲージなど当たり前に行っていると思っていたことが、いざお話を聞くとまだまだ足りていないことだと思いました。この授業を機にこのような点にも意識していこうと思えます。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>

第5回コミュニケーション（福所様）_5月13日

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>弁理士は科学技術と特許（法律）の世界をつなぎ、複数の技術分野にまたがった発明がり、外国との関わりや外国への特許出願など異なる属性の方々と接する機会が多い仕事である。現代ではチームで働く力、発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力が求められている。コミュニケーション力を高めるには、自分の専門性を軸にしつつも、異分野のことも広く浅く知る、多様性を受け入れる、心理的安全性を作り出すことが大切である。研究者と特許庁では言葉の意味が少し異なっていてトラブルにつながったこともある。欧米ではローコンテキスト、日本ではハイコンテキストなコミュニケーションが主流であるためその違いを理解する必要がある。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>本日はご講義ありがとうございました。「ゼネラリストの視点」を大事にしたいと思います。</p>	<p>ご受講ありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>コミュニケーションの必要性について考えるきっかけになりました。また、イノベーションとの関係について、初めて考えました。おもしろかったです。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>コミュニケーションが上手くいかないということは何かしらの「ズレ」が生じている状態であり、その「ズレ」が何かをきちんと把握することが大変重要であると分かった。また、プライドのぶつかり合いや国民性の違いといった様々な要素が「ズレ」に起因することも分かった。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>普段生活をしていて、友達と話しているときや教授と研究計画を話し合うときなどさまざまな場面でコミュニケーションの必要性を感じる。今回の講義をきいて、コミュニケーションに大切なことは教養や相手への共感のための表情であったりとたくさんあったが、共通して言えることは、相手への思いやりがあるということだと思った。相手への思いやりがお互いになれば、互いが嫌な気持ちになることも無くなるだろうと思う。先生がおっしゃっていたように、管理職の人にこの意識があれば働きやすい環境になると考えられる。また、具体的な例で、ドイツの人に日本のクリスマスの説明をした際、宗教というセンシティブな話題に対して、素晴らしい受け答えであると感じた。私も、さまざまな事柄に興味を持ち、教養をつけ、さまざまな人と交流できるようにしていきたい。そして、先生のような円滑なコミュニケーションが取れるようにしていきたい。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。相手への思いやりという本質部分も汲み取ってくださり嬉しいです。おっしゃるように、働きやすい環境のためには管理職の方がこの意識を持つことは大切ですが、一朝一夕に身につくものではありません。だからこそ、管理職になるときにそなえて、若い頃から意識していることが将来強みになっていくと思います。</p>
<p>今まで耳にするだけでよく知らなかった、弁理士の仕事についてのイメージを得ることが出来、とても興味をひかれた。私がコミュニケーションで連想した5つのものは「会話、ふれあい、喧嘩、殴り合い、共同作業、通信」でした。特許を取るうえで、幅を利かせようと範囲を広げすぎると全範囲について効果を示さなければならないというのが、範囲を狭めれば問題ないとはいえとても難しいなと感じた。質問ですが、特許の取られている技術と新規の技術を組み合わせた発明で特許を取りたい場合や、複数の特許を組み合わせた発明で特許を取りたい場合はとれるのでしょうか？また、どのようになるのでしょうか？ コミュニケーション力を高めるために必要なこと、についてですが、今回はキャリアマネジメント等の話の中だったので、仕事での有用性に目が向いてしまっただが、これは日常的な家族関係や教育、看護など様々な現場で重要なことだなと感じた。</p>	<p>ご質問ありがとうございます。 特許技術と新規技術の組み合わせでしたら、特許取得は可能です。ただし、その場合は新しい特許の発明の実施に際して、先の特許技術を利用することになるので、先の特許技術の特許権者から使用許諾をもらう必要があります。（新しい特許をとったからといって、自由に実施することはできません） 複数の特許を組み合わせた発明については、場合によります。単に組み合わせただけでは進歩性の問題で難しいです。逆に組み合わせにより特筆すべき効果があり、それが従来技術から予測できなかった場合には特許になる可能性もあります。</p>

第5回コミュニケーション（福所様）_5月13日

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>他人とコミュニケーションをとる場合、自分とは認識が違うことを理解し、自分から歩み寄ることが重要であることが分かりました。また、コミュニケーションを高めるためには自分の分野だけでなく異分野のことも広く浅く理解することが必要であることも分かりました。多文化の人々とコミュニケーションをとるために宗教以外にこれは知っておいたほうが良いというようなことは何かありますか。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。異文化の方とコミュニケーションをとるために事前に知っておくといのは講義で挙げさせていただいたようなリベラル・アーツの項目になります。その他ですと、異文化とはいえ、人と人のコミュニケーションですので、実際にその相手と話をしながら掴んでいくものかと思います。</p>
<p>コミュニケーションは人と関わる時に常にしているものですが、それらを分析、理解しようとしたことはありませんでした。しかし今回の講義でコミュニケーション力とは何か考えることができました。今回の講義でコミュニケーション力とは、相手を理解することであると同時に、自分を理解することも大切であるとおもいました。特に自分の意見を言う時、自分の事しか考えていない傾向があり、自分の分野に対するプライドというものがあることに気がつきました。異文化、多文化交流に対して宗教を知ると言うことは本当に大切だと思います。この価値観はここからきているのかと感じ、理解することができるが多々あります。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。おっしゃるようにコミュニケーションにおいて自分を理解することや自分の行っていることにプライドを持つことも大切だと思います。そしてそのプライドは相手に対して誇示するために使うのではなくて、自分がチームの中でどんな役割を担うのに最適か、という視点のために使うのがよいのだらうと思います。</p>
<p>今回はコミュニケーションについて学んだ。弁理士でもコミュニケーション力が求められるように、誰にでもコミュニケーション力は必要であり、他分野のことも広く浅く知っておく必要があることを学んだ。日本はローコンテクストがとても強いことを知り、とても驚いた。周りで起こっていることに目を向けて、相手を思いやれるような人間になりたい。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。ローコンテクストの話に驚かれたのですね。意外と「暗黙の了解」で成り立っていることが多いと思いますが、逆に言語外から察する力も強いということかもしれません。</p>
<p>具体的な事例を提示していただいた上での説明がとてもわかりやすかったです。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今回の講義ではコミュニケーション能力をどう使えばより良くなるのかを教えていただきました。私は現在研究室で医療物理学の分野を専攻していて、医療の分野と物理の分野2つの分野に対してアプローチをかけなければいけないので今回の講義の内容はとても勉強になりました。特に興味深かった話は心理的安全性の話です。心理的安全性が高まればパフォーマンスが高まるとのことでしたが、私も研究室1年目の時は意見を言っていたのか、意義を唱えてもいいのかなど迷ってしまいあまりいいパフォーマンスができていないことがありました。私は今後大学院を卒業して企業に就職していくのですが、就職したての時にまた心理的安全性が下がってしまうと思います。そうならないために今のうちに意識しておくこと・準備しておくことなどあったりするのでしょうか。今回の講義で自分の欠点を改めて認識できたのでとても有意義な授業となりました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。心理的安全性ですが、これは個人の特性というよりも、組織の環境の中に発言しやすい雰囲気があるか、ということです。</p> <p>確かに、環境が変わったときは、雰囲気を見定めたり、自分の立ち位置を把握するまで少し時間がかかったりしますが、即戦力として入るのでなければ、そうした時間もまた必要な時間と言えるのではないのでしょうか。</p>
<p>今自分に必要な姿勢が何かを学ぶことができた。私は、これだと思うとそのことに集中してしまい、先の予測をせずに突っ走って失敗してしまうことが多々あり、ここ最近視野を広く見ようと思っていた。しかし、「視野を広くみる」ために具体的にどうしたら良いのか分からなかった。今回の話で、相手の気持ちを先回りする、異分野のことを広く浅く知ることが重要であり、このことが相手とコミュニケーションをとるための言葉の引き出しになるのだと身に染みて感じた。特に、外国の方に、クリスチャンでない日本がクリスマス祝いを盛大に行う理由を聞かれ、副所さんが小学校の時に身につけた知識で答えた話が印象に残った。様々な分野を持つ人と楽しくコミュニケーションをとり、かつ信頼関係を得るためには、福所さんが教えてくださったことをこれから、実行していきたい。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。</p> <p>これだと思うことに向かっていき集中できることは素晴らしいことだと思います。かのエジソンはフィラメントの発明をするまでに1万回失敗した、と言われてるように、失敗から学ぶことも多いのではないのでしょうか。</p> <p>書いていただいた内容からは具体的な状況はわかりませんが、「先の予測をせず」が問題だとしたら、先の展開も考えてみる、代替案や次の手も考えておくといったことが、「視野を広くみる」ことにつながるのではないかと思います。</p>

第5回コミュニケーション（福所様）_5月13日

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>私はコミュニケーションについて、相手に思いやりを持って伝えることだと考えたいました。自分が相手に対して伝わるように相手の知識量や考え方の傾向に合わせていましたが、今回のじゅが夜雨を受けて少し違ったなと感じました。聞き手側もコミュニケーションのための下準備が必要で、お互いの心持ちや話しやすい環境づくりが重要だとわかりました。言葉の意味や感じ方は年代やその人のバックグラウンドによって大きく違うため、観察してもなかなか相手の立場に立って考えることは難しいなと思います。聞く技術というのも重要だということがわかりました。自分はあまり得意ではないと思うので、身体言語、声の調子には特に気をつけようと思いました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。ご指摘のように、特に仕事で連携する場面においては、話し手と聞き手双方のコミュニケーション力や話しやすい環境づくりが重要と思います。仕事で連携するとは、お互いにできることを積極的に持ち寄ってコラボレーションしていくことだからです。</p>
<p>今までほとんど日本人としか私はコミュニケーションを取ったことはありませんでしたが、今回の講義を聞いて、外国人とのコミュニケーションの仕方や特徴について聞いてよかったです。いずれ、必ず訪れる外国人とのコミュニケーションのシミュレーションをできて、ためになる講義でした。また、外国の方とコミュニケーションをとる場合はその方の宗教について知っておかないといけないということは自分の今後の学びになりました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>コミュニケーションについて話していただきありがとうございました。社会でコミュニケーション能力がどのくらい重要なのか知らなかったので、スペシャリストであっても、周りを考えるゼネラリストである事が大切というのがとても新鮮でした。相手を尊重する姿勢や失敗から学ぶことを常に意識し、自分の常識を他人が知っているとは決めつけず、ゼネラリスト思考を鍛えていきたいです。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>私は、建築を専門分野として学んでいます。もしかしたら建築に関してもままならないかもしれないが、他の分野に関してはあまりにも知識が少ないように思いました。修士の場合では、日々の生活の中で建築以外の方とお話をしたり、研究を行ったり、という場面は少ないですが、社会に出ればそのような場面は多くあると考えられます。まずは自分の知識を広げることが意識して生活することが必要だと思いました。日常のコミュニケーションにおいても、相手の趣味や好きなことに関して知識があったり、相手の分野を理解していたりすれば、会話の幅を広げることが出来ると考えられ、社会人としてのコミュニケーションにおいても重要であると改めて理解しました。また、知識を持つだけでなく、それをコミュニケーションに加える必要があるのだと感じました。相手に伝わるように表現したり、その手法に工夫をしたりすることも非常に重要だと理解しました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。建築がご専門なのですね。講義でお話したコミュニケーションですとやや想定場面がずれてしまったかもしれませぬ。ですが、建築の分野も施主さんの意向を形にしたり、人工さんとのコミュニケーションであったり、立場の違う方々との連携はむしろ多いのではと思いました。技術分野という大きいくりにこだわらず、立場の違いを超えていくものとして置き換えていただくのもよいかもしれないと思います。</p>
<p>一人一人価値観や解釈、考えが異なることから、ビジネスシーンにおいて、人とコミュニケーションを取る際には、一方的に自分の考えを通そうとせず、相手の状況に立って考え、お互いに歩み寄ることが大切だと感じた。私自身、積極的に人とコミュニケーションを取ることを億劫に感じることもあるのだが、まずは相手の価値観や相手自身に興味を持つことから始めてみようと思った。そのために、幅広い知識に触れておくことや、自分自身が様々な経験をすることで、自分の知らなかった世界を見てみるようにしたり、価値観や解釈の違いに対して否定的な考えを持たず、まずは理解しようとする姿勢を示したいと強く思った。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。おっしゃるように、価値観や解釈の違いに対して否定的な考えをもたず、まずは理解しようとする姿勢、は大切ですね。お互い安心して本音で話せるのがコラボレーションの一步だと思います。</p>
<p>コミュニケーションはいついかなる場面でも必要になると再認識できるいい機会になりました。ありがとうございました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>

第5回コミュニケーション（福所様）_5月13日

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>コミュニケーション力という言葉はよく聞くが、その場を盛り上げたり、初対面の人ともうまく話せる能力だと考えていた。しかし、今回のお話を聞いて、コミュニケーション力というのはその場をしのぐ能力ではなく、スペシャリストとして活躍するために必要な能力（ゼネラリスト思考）であることが分かった。また、異文化間でのコミュニケーション力を高めるために必要なこととしてお話されていた、「コンテキストの違いを知る」という点が印象に残った。その人の知識、経験、価値観、文化、またはそれらを形作ったりベラルアーツについて知ることが、円滑なコミュニケーションにつながるということが分かった。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。コミュニケーション力というのはその場をしのぐ能力ではないというのはおっしゃるとおりで、仕事では長期的な信頼関係を築くためのコミュニケーション力の方が影響力が大きいと思います。</p>
<p>ゼネラリスト思考を身に付けたスペシャリストという言葉が印象的でした。今回の講義でコミュニケーションをする際に自分の研究分野だけでなく、異分野のことも浅く広く知っておくことが大切だと分かりました。これから社会に出たら、全く異なったバックグラウンドを持った多様な人々と接する機会が増えると思うので、意識的に知識を増やしていきたいです。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>貴重なお話をありがとうございました。同じ言葉であっても、人によって解釈が違うということについて、ワークを通して理解することができました。今は研究室に所属していることもあり、似た分野の人とのコミュニケーションが多く、意識していませんでしたが、今後、異なる分野の人とのコミュニケーションをとる際には意識していきたいと感じました。心理的安全性についての話も共感できました。私の指導教員は、とてもフランクで失敗について気軽に相談できる先生です（むしろ相談しないとダメみたいな先生です）。なので、心理的安全性があると生産性が上がるというお話には、とても共感することができました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。失敗についても気軽に相談できる先生についていらっしゃるとのこと、素晴らしいですね。そうした方々との関わり合いもまた、将来自分がチームをまとめていくときの糧になると思います。</p>

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>一つの職に拘らなくなった現代の社会において、様々な知識を有しておくことは重要だと現在の学生は漠然と感じていると思う。しかし、広く浅い知識を有していても価値観や文化の違いと言った教養を身に着けるには経験が必要だ。そのような経験をどこで積むのか、私は能動的に動くことによって経験を得ることができると知ってはいるが、実践はできていない。昨今はコロナ禍でコミュニケーション能力を落としていると言われてはいるが、その分最近の若者は空気を読む能力を磨いているのだと感じる。しかし、空気を読むだけでは経験は積むことは出来ない。そのため私はインターネット情報に限られたセミナーなどではなく、大学の講義で異文化や他分野の学習を共有することができる講義を積極的に活用すべきだと考える。</p>	<p>ご意見をありがとうございます。 おっしゃるように身に着けた知識を実践するには経験が必要だと思います。一方で、一朝一夕にならないのもまた、経験だと思います。 今、目の前にあって掴むことのできる機会を活用していき、5年後、10年後に、そういえばこんな経験もしていたと感ぜられるようになる、というのが実際のところではないでしょうか。 そして、その5年後、10年後に自分は十分に経験を積んだと思えるかということ、その時点でまたさらに経験を積んでいきたいことが現れて…という感じで、成長する人に終わりはないように思います。だから、経験不足を嘆くより、経験していくことを伸びしろとして楽しめるのがベストだと思います。</p>
<p>研究とは違い、社会で働くということは、自分だけではなく他人と関わることであり、そのためコミュニケーションはとても重要になってくるということを学んだ。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>自分の専門的な分野だけ勉強するのではなく、専門外の分野も勉強することも重要であることがわかった。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>異分野説明の時に、あまり理解できない場合は、ただ事実を伝えるも充分でしょうか。また、心理的安全性ことがわかりました。気兼ねなく意見を述べることや自分らしくいられることについて、今後いいパフォーマンスのために、もっと頑張りたいと思います。</p>	<p>ご質問ありがとうございます。 場の雰囲気にもよりますが、知ったフリをするよりも、ここがわからないのですが説明していただけますか、という質問から理解が深まることはあると思います。 場の雰囲気にもよる、というのは、たとえば学会の口頭発表のような質問時間が限られた中で上記のような質問をするのはあまり適切ではないと思いますが、ポスター発表のような1対1の対話が可能な場では許容されるのではないのでしょうか。</p>

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>私は今、自然科学研究科環境科学専攻社会基盤コース応用力学研究室というところで鉄道工学を学んでいます。鉄道工学というのは実は大学で研究をすすめている所は日本では少なく、ほとんどが企業によって研究がなされています。時に、コース内で研究報告会が行われることがあり、その発表練習を指導教員の先生に見てもらいますが、その際によく指摘されるのは「何も知らない人にもわかるように」ということです。つまりはローコンテキストではなぜということなのだなど今回の講義で学びました。そのため、今後は「互いに前提や理解が異なる」・「ローコンテキストなコミュニケーションをとること」を意識したいと思います。</p>	<p>ご回答ありがとうございます。「何も知らない人にもわかるように」はまさにローコンテキストの表現を求められている場面だと思います。ちなみに、私の場合、特許業界では発明を文章で表現していくのですが、解釈が分かれるような文章では後々争いのもとになってしまいます。それで、最初の上司に「高校を卒業したくらいの人でもわかるように」と指導された経験があります。</p>
<p>従来のコミュニケーションに対して、話すのがうまいというイメージしか持っていなかったが、研究者としてのコミュニケーションとは、異分野の研究者との協力のためのものであることを実感した。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>日ごろから特に研究や仕事においてははっきりと言語化したコミュニケーションを行うべきだと考えていた為、今回の講演は非常にためになった。また、私は開発系の職に就きたいと考えているが、顧客のニーズに合わせた研究・開発を行うためには、相手の業種・分野について深く理解しなければならないということを再確認できた。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。開発ですとまさに研究にとどまらず、幅広くニーズを捉えていく必要がありますね。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>今回の講義では異文化の方とのコミュニケーションが印象的であった。相手の価値観や文化を考えながら円滑なコミュニケーションを取るということは国内においても様々な人がいるため重要なことであると思った。こういった姿勢は日々の意識の積み重ねだと思うので社会人として恥ずかしくないコミュニケーションが取れるように精進したい。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>

第5回コミュニケーション（福所様）_5月13日

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>相手とコミュニケーションを円滑に進めるために、まず準備段階として相手のことをよく観察・調査し、理解することが大事であるということがわかった。価値観や文化といった相手の背景情報を認識し、自分のものと比較したりすり合わせる事がコミュニケーションの質向上につながる事がよくわかった。相手に寄り添うことを意識して、私もよりよいコミュニケーションを様々な人にとっていきたいと思う。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>コミュニケーションを上手くするために必要なことが4つほど挙げられていたが、どれも自分にとって不十分であったということがこの講義を通してよく分かった。修士の2年という限られた時間の中で少しでもこの4つの運用能力を伸ばしていきたいと強く思った。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。コミュニケーション力を高めるために必要なことをご紹介しましたが、実はこれは一朝一夕になるものでもなく、ここまでできたらOKというゴールがあるものでもありません（私自身、日々精進です）。なので、少しずつ意識しながら歩いていただければよいかと思います。</p>
<p>コミュニケーションにおいて、相手について関心があることを相づちやアイコンタクト、顔の表情や声のトーンなどの態度で示すことによって自己開示をしやすくなる。コミュニケーション能力が上がることによって、人間関係が円滑に進み、仕事においても画期的なアイデアやチームワーク向上等の多大な恩恵を受けることが出来る。準備・観察・解釈・介入の精度を高めることでコミュニケーション力が向上するとのことだったが、観察・分析（相手の行動の背景や興味がある物事、テンション）をすることはとても重要であることを再確認した</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>

第5回コミュニケーション（福所様）_5月13日

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>弁理士という仕事になじみが無かったので、興味深くお話を聞かせていただきました。自分は今年から開設された日本酒学コース所属なのですが、このコースは文理融合型をうたっていて、コース全員での研究発表があります。同じ日本酒に関する研究ですが、やっていることは様々で、先日の発表の際にはほかの人が話していることが全然分からないなんてこともあったので、今回のお話は大変役に落ちる話でもありました。自分の専門性を高めつつ、広く浅く様々な分野の知識を得ていきたいと思いました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。同じコースの中にいろいろなことをやっている人がいる環境というのは貴重ですね。今後社会に出ていく上でも、きっとその環境で学ばれたことが糧になっていくと思います。</p>
<p>本講義でも大変有意義はお話を聞くことが出来た。今回はコミュニケーションについての講義だったが、私自身自分の弱点として認識している部分でもあるため、興味深い内容だった。最近よく耳にするVUCAの時代を生き抜いていくため、柔軟な発想力、なにより主体的に社会に参加することを意識していきたいと思った。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>私は建築学のスペシャリストを目指そうと大学院に進学しまして正直なところ専門性を高められればそれでよいと思っていました、なのでコミュニケーションには苦手意識もあり避けていたところもあるのですが第5項でまさにそのことを指摘されたような気がしました、ゼネラリスト思考や浅く広く知識を補うことこそこれからのスペシャリストに求められてゆくものだという学んだことは将来強く意識していかなければならないと感じました</p>	<p>ご感想をありがとうございます。 まず、スペシャリストであることは大きな武器であると思います。そのうえで、今後、誰かと連携したり、大きなプロジェクトに関わったり、あるいはそれを仕切ったり、ということになると調整するコミュニケーション力（ゼネラリスト思考）も必要となってきます。そのときに備えて、コツコツと意識していただくのがよいかと思います。</p>

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>認識のズレによるトラブルの事例を解説していただき、どこに問題があったのか、どう伝えればよかったのかなどを非常によく理解できた。実際に、挙げられた事例を聞いただけでは、何が問題なのかわからなかったので、自分のコミュニケーション力の至らなさを痛感したと同時に、その重要性を実感した。特に、外国の方との例では、文化的・宗教的背景を理解していることが重要だということで、非常に興味深かった。自身の研究においても、学会発表などの際には必要になるスキルだと感じた。また、その後の就職活動などにおいても非常に重要であると感じたので、今回の講演をスキルアップのきっかけにしたいと思う。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。日頃の積み重ねが大切なので、おっしゃるように学会発表や就職活動などを実践のチャンスとしていただければと思います。</p>
<p>相手を尊重するために傾聴を行い、話していることに関心をもつ重要性を学びました。私は学習塾でアルバイトをしていて、日頃から生徒が興味をもっていることに興味をもつようにこころがけていました。アルバイトで心掛けていたことが自分の研究、これからのキャリアに活かすことができると知り、自分のコミュニケーション力に自信が持てました。これからも自分に足りないところを見極め、更にコミュニケーション力を高めていけるように努力したいです。先生に一つ質問があります。日本で世代間比較をしたときに昔と比べてローコンテクストなコミュニケーションに移行しているような印象はありますか。私の研究室では教授がハイコンテクストなコミュニケーションをしているのですが、学生間のコミュニケーションとギャップがあるように感じています。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。 世代間でローコンテクストなコミュニケーションに意向しているという話はあまり聞いたことがありません。ただ、いつの時代もシニア層は「最近の若いものの考えていることはよくわからん」と口にしますし（笑）、逆もまたしかりです。 とすると、シニア層にはシニア層のコンテクストが、若い層には若い層のコンテクストがあって、両者の間に架け橋がかかっていない状態、と理解するほうが的確かもしれません。</p>
<p>専門外の人とのコミュニケーションにおける前準備の大切さを学びました。相手の受け答えに対して、「この人はこの学問を学んでいる背景があるからこのような意見が出てくるのか」といった相互理解に繋がるため、ディスカッション前には相手の分野の予習が重要だと感じました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。おっしゃるように、相手のバックグラウンドの予習は大切ですね。私も人とお会いするときは、可能な範囲でその方のプロフィールを見るようにしています。</p>

第5回コミュニケーション（福所様）_5月13日

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>貴重なお話ありがとうございました。コミュニケーション力の重要性は、日々感じているところですが、チームの中で働く上だけでなく、自分がキャリアを積んでより活躍していくためにも重要であることを改めて感じることができました。またハイコンテクスト、ローコンテクストという言葉は初めて知りましたが、国によってそれが異なっていてそれをコミュニケーションをするうえで知っておくことが大事であることを知ったので、これからの生活で他の国の人と話すときにそのことを意識して行って、社会人になってからそれを生かせるらしいなと思いました。ゼネラリスト思考を身につけることは大学院生活で研究活動をしたり、他分野の人と交流を行ったり、自分から様々な分野の知識に触れていくことで身につけられることだと思うので、これからの生活で意識して取り組んでいきたいと思いました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。ゼネラリスト思考は一朝一夕にはなりません。意識していくことで大学院生活から身につけられるものも多いと思います。</p>
<p>異文化コミュニケーションにおいて、相手の宗教などのことを関心を持つことが重要だとわかった。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>社会人として生きていく上でコミュニケーション能力が重要であることを考えさせられました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>

第5回コミュニケーション（福所様）_5月13日

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>本日の講義を聞いて、多文化のコミュニケーションには様々な背景知識が役に立つということを改めて認識しました。私は生物学を専攻していますが、理系の友人の多くは地質学や農学など、生物学以外の学問を専攻しており、そういった人々の話を聞くのは新しい刺激があり、面白いと思っていました。こういった経験が今後のコミュニケーションの場において生きてくるのかもしれない。また、理系以外の話で、例えば講義で出てきた宗教や地政学などの知識はあまりもっていないので、今後勉強する必要もあると思いました。</p> <p>「スペシャリストこそゼネラリスト思考を持つ必要がある」とのことですが、自分の分野のみならず様々な分野に興味を持つことが、コミュニケーションにおいて必要であり、本日学んだことを今後の人生に活かしていきたいと思います。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。様々な分野に進まれたご友人がいらっしゃるとのこと。そういう経験は後々生きてくると思います。宗教や地政学については、私自身は学部生のころに「宗教社会学」という人文系の授業を受けて関連書籍を読んだのがとても役立ちました。</p>
<p>1年間の研究活動を通して、技術的な習得だけではなくコミュニケーションの大切さを痛感しました。本講義ではどのように研究活動の中でコミュニケーションをおこなっていけばよいのかについて興味を持ち、お話を聞きました。ゼネラリストとしての視点が大切であるというお話が印象に残り、今後の研究活動でもその点を意識していこうと思いました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今回の講義を通して、ゼネラリスト思考の幅広い知識とコミュニケーション能力の大切さを学ぶことができました。自分はコミュニケーションをとる場合は、相手の立場になって考えることが大切だと思っています。宗教や国ごとの考え方の違い、文化の違いなどは、コミュニケーションをとる相手に興味を持つという事をしていけば、失礼なことを行わないようにできるのではないのかと思いました。他分野に興味を持つという内容では、論文を読んでいる、またはどの論文を読もうというときに自分は専門の分野の知識を深めるといふ1点のみを重視してしまうため、視野を広げ、自分の興味があるものも読んでみたいと思います。そのような知識や興味が将来役に立つという事を今日学んだので実践していきたいと思います。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。他分野を知るという観点ですと、つい他分野の論文も、、という発想になりがちですが、学術書や論文は専門性が高すぎてしまう可能性があります。私個人は、一般向けの、概略を説明したような本レベルにとどめて、それ以上は必要性がでてきたとき、という感じで対処しています。</p>
<p>ゼネラリスト思考が異文化、異分野の人たちと交流する上で大切であることを知って勉強になった。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>弁理士の仕事を知らなかったけれど、異分野の人との交流が多いことに驚いた。普段の対人関係でも、相手の立場や背景について考えて接することは大事だけれど、特に、今後の研究や仕事のキャリアの観点からは、より広く浅く知識を身につけておかないといけないと感じた。今私の所属する日本酒学プログラムは、文系理系を問わずに所属されていて、研究分野も多岐にわたっている。私には、議論をするほどの事前の知識がないため、今後の研究展開にヒントを得るためにも異分野について少し知っておこうと思う。また、宗教についてはよく知らないまま生きてきたため、勉強しようと思う。世界で起きている戦争や、価値観の違いなど、世界の規模で広く知っておき、コミュニケーションに生かせるようにしたい。また、トラブル防止のためにも、何か発言する前に、普段から一回自分で言葉を飲みこんでから話すことを気をつけたい。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。文系理系問わず、研究分野も多岐にわたっている環境とはコミュニケーション力を実践する場の宝庫ですね。歴史や宗教（宗教社会学）についての知識は、世界情勢を知る上でも役立つと思います。</p>

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>講義ありがとうございました。これまでの経験の中で、私も傾聴力の重要性を感じてきました。ヒントが身の回りの会話に隠れていること、そこまで親しくない友人との会話が新たな情報収集のツールに適している等、周りとの会話が自身の取組みに対しても実は重要であり、傾聴力を鍛えることでそのような場面で話しやすい関係性を構築し、得られるものを増やすことが出来ると考えています。そして本日、今後社会的にコミュニケーションが重要になるなど、社会的にも傾聴力が重要であることが分かりました。そのため、自分の方針を曲げることなく、これからも鍛えていきたいと思っています。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。身の回りの会話にヒントが隠れていることに気づいていらっしゃるの素晴らしいですね。ぜひさらに磨きをかけていただければと思います。</p>
<p>本講義で、私は技術者にコミュニケーションが必要であるという自分の意見にさらに自信を持つことができた。例えば、熱力学もエネルギーという観点では化学分野や生物分野、電気分野と密接な関係があることを私は卒業研究を通して学んだため、「技術者がその専門分野に加えてその周辺知識も広く浅く持つ必要がある」という条件にとっても納得できた。また、アメリカではディスカッションを行う場合、ネガティブな意見は禁止されており、反対意見を述べる場合は必ず相手の意見の改善策を述べるように決められている。そんなアメリカは数々のイノベーションにより経済的大国となった。このことから、本講義で挙げられた、多様性を受け入れるという条件についても納得することができた。一貫して技術者の新しい在り方について知見を広げられるようなお話であり、とても有意義な講義だった。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。すでに様々な分野と接するご経験や、自由に意見できる組織文化の利点などもご存知だったのですね。ぜひ今後もコミュニケーション力を武器にして頂きたいと思っています。</p>
<p>自分の分野だけを狭く学んでいくのではなく、他社とのコミュニケーションのために時には広い視野を持ち異分野、異文化を学んでいくことの大切さを学びました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話させていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>

第5回コミュニケーション（福所様）_5月13日

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>コロナ禍で対面でコミュニケーションを取る機会が減っていましたが、改めてコミュニケーション力を高めるために必要なことを学ぶことができました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。コロナ禍で対面コミュニケーションが減ってしまっているのは残念ですね。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>ハイコンテキスト、ローコンテキストによる国による情報（感情）伝達手法の差について、以前より生活の中で疑問に感じていた部分であるため、理解に至ることができた。また宗教によるコミュニケーションのアプローチは、その宗教についてだけでなく、進行している国の文化や歴史など様々な部分に焦点を当てて学習したうえで取り組む必要があると改めて感じた。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。おっしゃるように、宗教についての理解は、その国の文化や歴史を理解する上での柱の一つ、という位置づけです。</p>
<p>会社で働くに当たって、一番大切なことは、同僚、部下、上司と適切なコミュニケーションであり、今回の講義でコミュニケーションに必要なことについてわかりやすく解説していただき非常に役に立った。まず、準備段階として、自分の専門性以外の分野においてもある程度の知識を持つことが大事であり、多様性を受け入れ、心理的安定性を作り出すことでコミュニケーションの橋をつなぐという表現がしっくりきた。このコミュニケーションはイノベーションを起こすことにも繋がっていて、その中でより活躍していくためには、幅広い知識とコミュニケーションが必要である。私は、コミュニケーションを取るのには苦手ではないので今回の講義を実践して会社でも役立てていきたい</p>	<p>ご感想をありがとうございます。チームで働く力、とはいいますが、おっしゃるように、同僚、部下、上司とのコミュニケーションが最初の要であろうかと思います。細かいところでは、同じチームの中でも価値観が違うこともあるので、本質的には同じ考え方ができると思います。</p>
<p>貴重なお話ありがとうございました。質問にも丁寧に対応していただきとても勉強になりました。今後もゼネラリスト思考と高いコミュニケーション力を身に着けることを念頭において、心理的安全性や、傾聴などを重点的に自分なりに勉強していこうと思います。</p>	<p>ご質問をありがとうございました。少しずつでも意識して頂けると、後々大きな違いになってくると思います。</p>

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>異分野でのコミュニケーションでは、同じ言葉でも相手の受け取るニュアンスが異なることを前提として話さなくてはいけないことを様々な例を聞いたことで理解できたとともに、今までのコミュニケーションの場で自分の常識を相手にも押し付けてしまっていたことが多々あったと反省しました。そのようなことを、なくすためには専門分野外の知識も広く浅く持つておくこと、思い込みには注意すること、傾聴の姿勢を忘れないことなど、振り返ってみると自分に足りていないものばかりだと気づかされました。この年になって、大事なことに気づかずコミュニケーションをとっていたことは、恥ずかしい限りですが、社会に出る前にこの講義で見つめなおす機会になったことはすごく良かったと思いました。他分野への好奇心を持って生活していきたいと思います。とてもためになるお話ありがとうございました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。コミュニケーション力を磨くことには終わりが無いので、少しずつでも着々と意識していただければと思います。</p>
<p>学部生の頃の研究が企業と協力して行うものであったため、今回の異文化間でのコミュニケーションの話は非常に興味を持って聞くことができた。研究ではこちら側が技術提供する側であったため、その概要を企業の方に説明する機会が数回あったが、その際にどこまで具体的にはなすべきかをその都度考えていたため今回の話には共感できる部分も多かった。また、大学のやりたいことと企業のやりたいことの差というもの感じていたのでその関係の話も聞くことができてよかった。今回の内容は自分が非常に大事だと思っていることであった反面、ざっくりとしたイメージしか頭になかったが、今回の講演を通して具体的なイメージに変えることができたため今後の自分の活動の様々な面で活かしていきたいと感じた。【質問】・自分の専門分野を他分野の方に説明する際にどの程度分野の内容を抽象化して説明すればいいのか。</p>	<p>ご経験に照らして講義を聞いていただけたとのこと、ありがとうございます。</p> <p>ご質問の点ですが、他分野の相手にどの程度抽象化して話すかについて、これは相手と伝える趣旨にもよると思います。</p> <p>例えば、大学見学にくる高校生に説明するのと、研究でコラボを画策されている方に説明するのは前提が異なるはずです。高校生が相手の場合は、どんな研究分野なのか、どういう分野での活用を目指しているのかといった一般的な位置づけを最初に話すと思います。コラボ相手でしたら、一般的な前提を多少割愛して、技術が優れているポイントを中心に話すかもしれません。</p> <p>結局、相手の理解度を予め推測して、どういう切り口から始めると理解を深めて頂けるのかということを考えるということかと思います。</p>

第5回コミュニケーション（福所様）_5月13日

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>貴重なご講義ありがとうございました。コミュニケーションという正解がないトピックについての講義でしたが、国際ごとや宗教観の違いや例えを用いながら説明してくださったため、考えがとても伝わりました。国ごとの価値観の違いなど知らない話題が多く新鮮でした。また、日常の知人とのコミュニケーションや学会など自身の分野でのコミュニケーション、就活などの分野外でのコミュニケーションなどその場によっての使い分けも必要だと意識しました。特に印象に残った話が、様々な分野を広く浅く知るという点でした。個人的に日々様々な経験をしようと考えているため共感した部分と、さらに疑問が浮かんだ部分がありました。そこで質問なのですが、体験や学習してある程度知識があったとしても、会話の中でその知識を瞬時に思い出し、今話している話題に紐づけるためにはポイントはあるのでしょうか。お答えいただけると嬉しいです。</p>	<p>ご質問をありがとうございます。 知識を思い出すコツですが、知識をインプットするときに、こういう場面で使いたいと目的をもってインプットするとか、あるいは目的なく入ってきた知識についてはこんな場面に関連しそうとか、そういうことを意識しています。つまり、知識のインプットのときに、目的や自分の他の知識とリンクさせる意識をもつということです。 脳内の記憶のしくみに照らしても、リンクの多い知識は引き出されやすくなることがわかっているので、これは理にかなっていると思います。</p>
<p>コミュニケーションの大切さを改めて痛感しました。社会でグローバル化が進む現代で、言語の通じにくい方々と円滑に協議を進めるために、意識していく必要があると思いました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話させていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今回の講義の内容は、イノベーションを起こすためには、異分野の融合が有効で、それにはコミュニケーションが重要で、そのコミュニケーションには幅広い知識があった方が良い、という内容だったと思います。コミュニケーションにおいて、相手の話をよく聞く方が良いというのは、聞いたことがあったのでなるべくそのように振舞っていましたが、話を聞いている姿勢を相手に分かるようにするという事までは、考えたことがありませんでした。聞くという行為は受動的なイメージがありましたが、聞いている姿勢を相手に伝えるという意味では、傾聴という行為は能動的な行動であるように思いました。また、文化(分野)の違いによる価値観の違いに気を付けるという話も勉強になりました。これから就職活動で面接を行うときに、面接官であるビジネスマンに合わせた言葉を使った方が、面接官に自分の気持ちを伝えやすくなると思いました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。傾聴は能動的な行動というのは、おっしゃるとおりだと思います。傾聴は、単に聞いているようでいて、相手の価値観や判断基準をジャッジせず一旦受けとめながら聞くということなので、本能に反するというか、かなりの理性が求められることであったりします。</p>
<p>本日はありがとうございました。就活においても、エントリーシートや面接で、自分の専門分野にあまり精通してない人事の人などに対して、相手の事情を考えて話すことは非常に重要なことだと感じました。これからの就活において、相手への理解を踏まえ、謙虚でわかりやすい話し方を身につけていきたいと思いました。また、私は研究の他に、ピアノやラグビー、キャリア支援活動、海外活動など、いろいろなことを継続してやったり、時間のあるときは、自分の専門以外の分野のセミナーなどにも出席してきたので、多様性や異文化のことを知るとい話は非常に共感しました。自分と立場の異なる人との会話が弾むのはもちろん、研究以外の分野におけるものの考え方が、研究でも活かせることは多々あるので今後も続けていきます。最後に質問です。福所さんにとって、異文化のことを学ぶ際の効率的な方法がありますか？あるとすればどういったことでしょうか？</p>	<p>コメントをありがとうございます。研究だけでなく様々なことに取り組まれているんですね。異文化のことを学ぶのに効率的な方法ですが、やはりチャンスがやってきたらいろいろな場を経験することではないかと思えます。確かに、本などで予備知識を入れることも大切なのですが、実践なくしては身につかない部分も多いです。効率的ではないかもしれませんが、インスタントなものは土台もまた危ういように思えます。</p>

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今日の講義で一番印象に残っているのは、「スペシャリストこそ、ゼネラリスト視点を武器にしよう」だ。実は昨年もキャリアマネジメントの単発講義で福所先生のコミュニケーション講義を受けた際に同じ言葉を頂いており、自分なりにゼネラリスト思考を磨くために文系理系問わず、様々な分野の人との交流や講義を受けてきた。その結果、他分野に関する知識や特有の思考方法なども軽く身についた。しかし、あまり成長している実感がわかなかつたため、本日の講義で「ゼネラリスト思考の習熟方法」を質問してみたところ、何かプロジェクトの際に実感することが多く、また、習熟のためには意図して行ってはいけないというアドバイスを頂いた。この1年かなり意図して動いていたため少々驚いたが、「何年越しかに役立つかもしれない」くらいが意気込みとして丁度良いようなので、これからも他分野の興味は欠かさないが根は詰めないようにしようと思う。</p>	<p>す。 コミュニケーション力を磨くことは、ここまででよいということではなく、終わりのないプロセスだと思います。様々な経験のための機会を得ることを意図することは必要ですが、そこで得られるものまでコントロールすることはできません。 つまり、方向性として、 「〇〇が面白そうだから参加してみたら、△△という経験をした。それが5年後に役立った」ということであって、 「△△が得られそうだから、〇〇に参加する。△△が得られないだろうから参加は見送る。」ということではない、ということです。 ブランド・ハプンスタンス理論というキャリア理論（クランボルツ博士）があるのですが、そこでは「個人のキャリアの8割は、予期しない偶然によって形成される」と主張されています。 可能性を広げていく局面では、そうした偶然を大切にしていって発想も大切かと思います。</p>
<p>コミュニケーション力が社会人に必要なのは分かっていたのですが、実際にどのように高められるのかが分かっていなかったもので、この講義で意識すべきことがわかり、よかったです。異分野のことを広く浅く知ること、相手の話に関心を持ち相槌を入れること、相手の状況を先読みすることなどは普段の生活でできることだと思うので、これから実践して行こうと思います。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>

第5回コミュニケーション（福所様）_5月13日

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>これから始まる就活に向けて自分の強みについて考えたところ、相反する考え方を肯定的に捉えられる点だと帰結しました。しかしこれは今までに自分が属してきた、狭い組織の中での感覚でしかないと感じています。今日のお話にもあったように多文化の組織など、もっと広い世界に関わることになった場合でも、同じようにそれぞれの価値観や思想、意見を尊重できる人であるためには異分野のことを広く知る努力が必要であり、それにより相手に寄り添ったコミュニケーションをとることができるのだと感じました。また講義後には質問にお答えいただきありがとうございました。異分野を尊重するという考え方のように今の日本では多様性がトレンドとなっていますが、対象となる事柄の存在を知っているだけで多様性を認めた気になっている傾向があるように思います。したがって真の多様性理解のためにも広い知識や視野を持つことが大切だと改めて思いました。</p>	<p>ご質問をありがとうございます。相反する考え方を肯定的に捉えられるのは素晴らしいことですね。多様性に関しては、言うは易し行うは難し、で実際の現場で実践できる人が増えていくことが大切だと思います。</p>
<p>今回の講義を通して、コミュニケーションの重要性について具体的な事例などを聞くことでより理解が深まった。自分自身も異分野の人と話す機会が増えているため、発表や就活などで研究のことなどをわかりやすく伝えることができるように今回の講義で聞いた話を活かしていきたいと思った。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>相手に納得してもらえ、円滑なコミュニケーションには、相手の分野・立場・コミュニティをある程度知っていることが必要であることが分かりました。私自身のこれまでの経験からも、会話をするのに必要なことは、相手に興味を持つことだと感じました。ここでひとつ伺いたいことがあります。私はあまり関係の深くない人とコミュニケーションをとるときに、相手に誤解を与えたくないという思いが強すぎて、色々考えながら話しています。しかし、いつも考えすぎてしまい、話すのがとてもゆっくりになってしまいます。相手にも迷惑をかけてしまうことがあるためこれを改善したいのですが、なにか良い改善方法はございませんでしょうか？</p>	<p>ご質問ありがとうございます。相手に誤解を与えたくないからいろいろ考えることは、逆に相手に対する思いやりから慎重さがあるということだと思います。あるいは、本来聞き上手なのかもしれません。</p> <p>一方、相手と会話することに対する恐怖心があるようでしたら、会話することに対するイメージを変えていくという方法もあります。</p>
<p>講義の中で、浅くでもいいから広く関心を持ち、知識を広げていくことが大事だという話だったと思うのですが、関心を持つためにきっかけづくりにもどのように行動すればよいか、また、行動を起こす前に知っておくべき注意点など福所さんの経験なども含めて教えていただけないでしょうか。</p>	<p>ご質問ありがとうございます。</p> <p>関心を持つためのきっかけですが、私の場合はクライアントが喜んでくださるような仕事をしよう、という意識が大きな原動力になっています。</p> <p>また、行動を起こす前に知っておくべきことは、どんな行動かにもよりますが、小さい行動、継続できる行動の方が持続するので、結果的に大きな差を生むように思います。</p>
<p>ゼネラリスト試行を持つことで、自分自身が組織や周囲の人間からどのような役割を求められているのかを適切に把握し、それに応じた振る舞いをすることができると思うので、一つの分野にとらわれず多面的な観点から物事を判断できるようにこの2年間で培っていきたいと感じました。院生会などの活動を通じて、是非文系の研究分野も聞いてみたいです。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今回の講義では先生から弁理士の立場からの社会でのコミュニケーション必要性と意識の手法を学びました。これからの時代の技術発展のためには同一分野の中だけではなく異なる分野、技術が組み合わせることによってイノベーションが生まれ、そのイノベーションのためにコミュニケーション力が必要であることが分かりました。そして、このコミュニケーション力を高めるために異分野の事を広く浅く知る、背景の違いを知る、多様性を受け入れる、心理的安全性を作り出すという事が大切だと学びました。これらのお話は研究室に所属する身としてもとても勉強になりましたし、これからどの道でキャリアを積み重ねていくとしても必要な能力であると知ることができたためとても有意義なものでした。未来はもちろんのこと、今所属している研究室やこれからの道の決めていく際にもこれらの力を発揮できるように、この力を身に付けられるように努力したいと思います。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>近年、『ジョブ型雇用』というキーワードを、就職活動を通じて、良く目にする。個人の能力が秀でていてもそれを他の分野に応用が出来ないと、社会にとって大きな成長は難しいのではないかと感じていたが、本講義を通じて知った『弁理士』という職業はこの疑問への解答の一つであると思った。</p>	<p>コメントありがとうございます。ジョブ型雇用に移行していくと、専門性のある人材の強みが生きてくると思います。一方で、仕事には関係各方面との連携も不可欠なので、コミュニケーション力を併せ持つことがこれまで以上に必要になってくるように思います。</p>
<p>イノベーションを起こすためには、他社との親密な相互理解が重要であることが学びました。また、講義中でAIを用いた研究を行っているという話を聞いていたのですが、当研究室でもこれからAIを用いた研究を行うので、AIに対する有用性を把握できて良かったです。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。AIは有望な分野ですし、専門家がまだまだ少ないと聞きますので、ご活躍の場がひろがりますね。</p>

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>まず、本講義では弁理士という職業について、その概略をつかむことができ、将来の職業選択にプラスになると感じた。また、本講義のメインテーマである「コミュニケーション」については、社会人になり様々な立場の方々と仕事などで接していくうえでは必要不可欠な知識を福所様の業務経験を交えながら学ぶことができ、自分のコミュニケーションについての考え方が大きく変わった。特に、それぞれの立場（職や国籍）によって前提や理解は必ずしも同じではなく、自分の専門にのみとらわれていては十分なコミュニケーションは取れず、専門外の幅広い知識こそ社会において重要であると感じた。さらに、これからのグローバル社会において日本人特有のハイコンテクストは時としてコミュニケーションの障壁になるのではないかと強く感じたため、今後の大学院生活でできるだけローコンテクストを意識しようと思った。本日は大変貴重なご講演ありがとうございました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p> <p>ハイコンテクストは、そのままだとコミュニケーションの障壁になることもあるかもしれませんが、逆に言語外の意図を読み取る能力も高いとポジティブに捉えることもできます。表現（アウトプット）する際に「言わなくてもわかるだろう」になっていないかを意識することで対策できると思っています。</p>
<p>実体験のまぜながらお話していただいたので、すごく面白かったです。特に宗教に関するお話のところは、確かにそうだなと思いました。普段生活する上で自分の意識していないところは相手への心配りも忘れやすいが、相手はその部分を大事にしている可能性がある。これはコミュニケーションの中でも1番できていない人が多く、自分もどこかで無意識に相手に失礼をしているかもしれないと思いました。今まで社会人はコミュニケーションが大事というのは分かっていましたが、理由を考えた時にふわっとした理由しか思いつきませんでした。今回お話を聞いて、なぜコミュニケーションが大事なのか、コミュニケーションをとるということを改めて考えることができました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。普段意識していないところへの心配りを忘れやすい、というののおっしゃるとおりです。視野を広げるというのは、案外盲点をつぶしていくということなのかもしれないですね。</p>

第5回コミュニケーション（福所様）_5月13日

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今回の講義で、コミュニケーション力は場を盛り上げ、和ませるトーク力ではなく、異分野について積極的に学び相手のコンテクストを理解した上で、相手が不愉快にならないようなアプローチを考え実行する力であることを改めて理解することができた。特に、特許庁の拒否理由通知に対して発明者に、特許請求の範囲を見直すべき旨のコメントをつけて通知した事例が印象に残った。この事例から、相手の目線に立って考えることを具体的にイメージでき、研究成果を言葉のみで説明することの難しさを感じた。私も異分野融合型の研究テーマを扱っているため、研究の経験がない人に対して自分の研究を説明する際は広義の意味をもつ単語を意図的に使うが、正確性に欠けているのではないかと不安に思うことがある。その意味で適応課題を解決する弁理士の仕事は困難が多いと思った。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。 異分野融合型の研究テーマを扱っておられるとのこと、コミュニケーション力が鍛えられるのではないのでしょうか。確かに研究者という立場からは正確性に欠ける表現は気になるとは思うのですが、伝えるという意味からは相手の状況に応じて意図的にわかりやすい表現から入っていくというのも十分にありだと思います。 極端な話、ある技術が製品化されたとして、研究室でのキーワードを使うより、CM用のキャッチコピーを考えた方が売れる、ということが起こることに似ているかと思います。</p>
<p>これまで、就活やゼミを通じて、心理的安全性が高いと、高いパフォーマンスを発揮できると実感できることがたくさんあった。多文化、他分野の方と接する時に限らず、人と接する時は、相手を尊重し、傾聴する姿勢を心がけたい。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。心理的安全性の高い場をご経験されていることは今後の糧になりますね。</p>
<p>今まで外国人とコミュニケーションをとったことがほとんど無かったが、今後仕事などでそのような機会があった場合、文化の違いで摩擦が起こることも考えられるので、あらかじめ様々な文化に触れたり勉強しておくことが必要だと感じた。文化への理解をはじめとして、自分の専門分野以外への好奇心も大切にしたいと感じた。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。ぜひさまざまなことに興味をもっていただき、お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>私自身、コミュニケーション力が弱く、改善しなければならぬと感じていたが、より一層必要と感じつつ、このことをポジティブに捉えたいとなった。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもコミュニケーションを考えるきっかけになりますと幸いです。</p>

第5回コミュニケーション（福所様）_5月13日

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>文化的背景が異なる人と交流する際には細かな点にまで気を付けないと、些細な言動で相手に不快な思いをさせたり、相手の理解を得られなかったりすることが理解できました。大学院では自身に関連する分野にのみ触れることが多く、意識しなければ知識や価値観が偏ってしまいがちなため、日頃から様々な考えや知識に触れ、俯瞰的な視点を得ることが必要であることが学べました。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでも視野を広げるきっかけになりますと幸いです。</p>
<p>今までは弁理士という職業は知っていたものの、弁護士に似たものなのかな程度の認識だったので、弁理士の職業内容を知れてよかった。弁理士は言葉が必要不可欠なツールで、国内のみならず海外でも活動している。さらに依頼ごとにその内容を深堀しているように感じた。そのため、1つの基準で動かず、あらゆる立場の基準を理解した上で成り立つ職業だと思った。今後自分も社会人になる中で、今回紹介された技術的課題や適応課題に直面するだろう。また自分の中の常識が、他の文化では違う場面にも遭遇するだろう。そのような時は、今回学んだゼネラリスト思考を活かし、一旦立ち止まって対処したい。そのためにも、今から自分の研究分野以外のことも積極的に吸収していき、またコミュニケーション力を鍛えるためにインターンシップやバイトを活用して、意図的に行動していきたい。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。弁理士の職業内容についてもご紹介できてよかったです。</p>

第5回コミュニケーション（福所様）_5月13日

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>「コミュニケーション」の類義語を5つ記載するところでは、一致する単語を出すことができず、改めて他者と協働する難しさを再認識できました。自身の視点がずれている認識をもっているからこそ、コンテキストを知り、多様性を受け入れるマインドがつくられていると自己分析をしています。今回の授業をはじめ、キャリアマネジメントセミナーの講義を通してまだまだ未知の世界を知ったり、担当してくださる講師の方の深い経験に触れて視点を広められたりするのでとても有難いと改めて感じました。最後に「スペシャリストこそゼネラリスト視点を武器に」といったメッセージが印象的でした。特に、私の研究分野（フィールド）である「地域」で活動実践を行うなかでゼネラリスト視点は欠かせないと体感しているため、この大学院生活のなかで精度を高めていきたいです。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。今の研究活動の中でゼネラリスト視点を実践していく場があるのは素晴らしいですね。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>
<p>人前で話すときに緊張するので、どういう心持ちで話せばいいのか参考になった。</p>	<p>ご感想をありがとうございます。お話をさせていただいた内容が少しでもお役に立てますと幸いです。</p>

第5回コミュニケーション（福所様）_5月13日

学部生：質問／コメント	回答／コメント
資料（PPTの量、文字数、フォントサイズ）と話すテンポなどが良かった。メリハリのある内容で、訴求力が高かったと思います。	フィードバックと嬉しいお言葉、ありがとうございます。